

サナブリ

田植えが終わった後に、手伝ってくれた人たちをねぎらい、美味しい料理を食べたりお酒を飲んだりする慰労会いろうかいのことをいいます。家族や手伝った人たちが飲食を共にし、無事に田植えが終わったことを祝いました。

〈サナブリの説明〉

田植えは、今では機械化が進み、少ない人数でも作業することができます。しかし、昔の田植えは、苗代作りなわしろから田植えが終わるまで大変な忙しさでした。

特に、手で植える田植えは、長時間、こし腰を曲げた状態で作業を続ける重労働でした。したがって、田植えは多くの人手を必要とし、家族や近所など総出で行う集落あげでの共同作業となっていました。

サナブリは、田植えが終わって一段落ついた束の間の息抜きの日でもありました。農作業を休む日としていた地域もあります。

各家庭で行うもの（コサナブリ）と、集落全体で行うもの（オオサナブリ）があります。食べ物も、かしわ餅もちやあんころ餅たんざん、炭酸まんじゅうを作るところや、各家庭料理を持ち寄るところなど、地域や家庭によって様々です。



田植え

（昭和 48 年宇都宮市篠井地区
柏村祐司氏撮影 県立博物館提供）

〈サナブリでは道具に感謝も！〉

オオサナブリの時には、田植えに使用した農具をきれいに洗い、お神酒みき※を供え、田植えが無事に終了したことに感謝をしました。そして、豊作を祈りました。

※お神酒＝感謝や願いを込めて、神様に供えるお酒。

家族や親戚しんせき、近所の人たちがお互い助け合って田植えをしていたまるね。サナブリで、人と人のつながりをより強めていたまるね。

